

地図から消えた笹下

要塞地帯だった鎌倉街道以南



鎌倉街道以南が空白で記された地図

第二次世界大戦の終戦から65年。現在の港南区にあたる地域は戦中に大規模な爆撃被害はなかったが、その一部が東京湾要塞地帯に指定されていたほか、横浜大空襲では敵機の大編隊が上空を通過するなど、戦争は確実に人々の生活に影響を及ぼしていた。

東京湾要塞とは、東京を海からの攻撃から守るために設置された軍事施設。東京湾上や三浦半島、房総半島には陸海に砲台がいくつも設置されていた。

その周辺も法律により「要塞地帯」として定められ、現在の港南区の鎌倉街道以南もこれに該当。軍事機密を守るため、現在の笹下、目野、港南台など、要塞地帯は地図上で空白に記さ

れた(図)。また、この地帯では家屋新設や焼き火など、住民やそこに訪れる人に対してさまざまな禁止事項を設け、違反者には懲役や罰金が科せられたという。

要塞地帯にあたる南区笹下町(当時)に住んでいた武内文衛さん(86歳)は、「スパイ対策で馬に乗った憲兵隊が年中見回っていた」と当時を振り返る。同じく北見幸男さん(82歳)は、「要

塞地帯では撮影や模写も許可が必要。だから当時の笹下の写真はほとんど残っていない」と話すなど、生活に制限を強いられていた様子が浮き彫りに。

武内さんと北見さんは戦中、敵機の飛来を監視する哨員として服務。戦禍が激しさを増してきた昭和19年11月1日、武内さんは目野公園墓地の高台に設置された防空監視哨から、高度1万メートルの上空を飛ぶB29の姿を目にしたという。

地図編集工房の代表で、終戦前後の日本地図について研究している大久保在住の長谷川敏雄さんによると、これは写真撮影を目的にB29を改造したF13という偵察機。この航空写真をもとに米軍は「空白部」を埋めて地図を作成し、東京や横浜の大空襲に備えてい

たという。

そして迎えた昭和20年5月29日、横浜は約31万人が被災する大空襲を受けた。この日、防空監視哨で任務にあっていた武内さんは日野上空を通過していったB29の大編隊について、「空が暗くなるほどの数だった」とし、「怖さよりもあつけにとられた」と語る。

国を守ることに必死で、命を失うことに恐怖感はなく、要塞地帯の不自由な暮らしに「疑問は感じなかった」としながらも、「平和が一番」と口をそろえる2人。一方で、他を傷つける痛ましい事件が耐えない現代を嘆き、「国や家族に尽くす姿勢が今の日本には必要」と武内さんは話していた。